

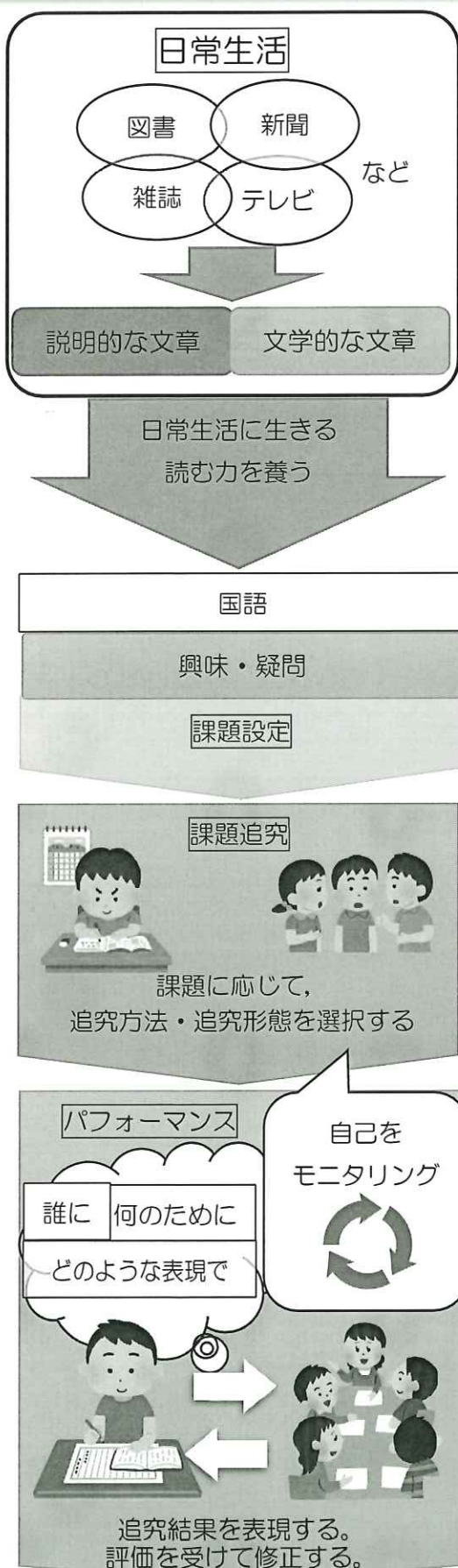


# 子供が学びをつくる 国語 (書くこと)

国語

国語の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>日常生活において、様々な文章に出会う中で、文章で伝えるよさをとらえるとともに必要感を高め、目的や相手、文章の様式等に応じながら、言葉の意味や働き、使い方等に着目し、適切に文章を書こうと課題を設定することができる。課題を設定したあと、課題を追究する中で、新たな課題を設定することができる。</p> <p>(1) 日常生活において、様々な文章に出会う中で、文章で伝えるよさをとらえるとともに必要感を高め、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文章にして書いて伝える必要感をもち。</li> <li>② 相手に文章を書いて、思いや願いを伝えたいと意欲を高める。</li> </ol> <p>(2) 目的や相手、文章の様式等に応じながら、言葉の意味や働き、使い方等に着目し、適切に文章を書こうと課題を設定することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目的や相手等を設定するとともに、それに応じた文章の様式に気付くことができる。</li> <li>② 文章の様式に応じた構成、記述の仕方等の特徴を考えようとする。</li> </ol> <p>(3) 課題を設定したあと、課題を追究する中で、新たな課題を設定することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 設定した課題を解決する過程において、文章表現への理解が深まることを通じて、新たに興味や疑問、課題をもち。</li> </ol>
課題追究	<p>課題を追究する際に、方法や形態を選択することができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。課題を追究する過程で、方法や形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。</p> <p>(1) 課題を追究する際に、方法や形態を選択することができる。また、他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題を追究する際に、方法や形態を選択する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を追究するために、書きながら考えるのか、話し合いながら考えるのかなどの方法や個人で追究するのか、複数人で追究するのかなどの形態について選択する。</li> <li>・ 他者と対話する中で、自分の考えと他者の考えを比較し、共通点や相違点等を明確にして、自分の考えを広げたり深めたりする。</li> </ul> </li> </ol> <p>(2) 課題を追究する過程で、方法や形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題を追究する中で、自分が選択した方法や形態が適していないと判断した場合に、改めて方法や形態の選択を行う。</li> </ol>
パフォーマンス	<p>目的や相手、文章の様式などに応じ、身に付けた力を生かしながら、適切に文章を書くことができる。また、読み手からの評価を踏まえ、表現を修正したり、次の表現に生かしたりすることができる。</p> <p>(1) 目的や相手、文章の様式などに応じ、身に付けた知識や技能を活用しながら、適切に文章を書くことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目的と相手を明確にして書く。</li> <li>② 文章の様式やその特徴に応じて書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察記録文、調査報告文、意見文、提案文等</li> <li>・ 宣言的説明文…「〇〇は～である。」手続き的説明文「〇〇なら～する。」等</li> </ul> </li> <li>③ 身に付けた知識や技能を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係 等</li> </ul> </li> </ol> <p>(2) 読み手からの評価や助言を踏まえ、表現を修正したり、次の表現に生かしたりすることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 読み手からの評価や助言を踏まえ、文書を修正する。</li> <li>② 読み手の評価や助言を次の文章に生かす。</li> </ol>

# ～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～



## 目指す姿を実現する支援例

### 【文章のよさを考える場面を設定する】

- 文章にすることで、記録することができたり、内容を整理することができたり、また時間的および空間的な距離を縮めることができるなどのよさを考える場面を設定する。

### 【文章の様式を明示する】

- 目的や相手に応じた文章の様式に気付くために、複数の文章の様式を比較する場面を設定する。

### 【話題について振り返ったり、修正したりする場面を設定する】

- 相手や目的、文章の様式等を踏まえ、話題が適しているかについて、振り返ったり、修正したりする場面を設定する。

### 【方法や形態を選択する場面を設定する】

- 自力追究、ペア追究、グループ追究等のよさに気づきながら、選択する場面を設定する。

### 【対話の場面を設定する】

- 対話を通して自分の考えと他者の考えを比較する場面を設定し、自分の学びを振り返るように促す。

### 【選択した追究方法や活動形態を振り返ったり、再選択したりできるように支援する】

- 選択した追究方法や活動形態を振り返り、適しているのかを判断する場面を設定する。また、適していない場合には修正したり再選択したりする場面を設定する。単元導入時に、追究方法や活動形態について選択する活動を設定し、見通しをもって活動に取り組めるようにする。

### 【子供が追究結果を表現することができるよう支援する】

- 目的と相手に応じて、どのような表現方法を選択したらよいか吟味するように促す。
- ペア、グループで相談して、適した方法を選択するよう促す。

### 【身に付けた国語の力を生かすことができるよう支援する】

- 国語科の授業だけでなく、様々な場面に「読む・書く・話す・聞く」の活動を取り入れていく。

### 【聞き手や読み手からの評価を生かすことができるよう支援する】

- 追究結果を表現した際に、聞き手や読み手から感想(評価)を受ける場を設定し、表現を振り返ることを促す。

国語科(書くこと)担当: 松下 裕幸